

域であり、軟弱層の分布が認められない地域であるため、軟弱層の圧密による地盤沈下は発生する恐れがないので、地盤沈下の発生の恐れのない地域として類型化するものとする。

## 第2節 現況と将来予測

### 1. 現 況

地盤沈下の現況は、一部の地域を除き県全域については握されていないので、本計画では、県全域について地形と地質の特質を解析して地下水盆地を設定し、この地下水盆地内の軟弱地層の分布をは握することにより地盤沈下の推定を行い現況とする。

#### (1) 地下水盆地の設定

地下水盆地とは、いくつかの帯水層の集合体であり、これが一つの地下貯水槽を構成しているものである。

一般的に地下水盆地においては、第四紀層の帯水層と第三紀層の帯水層とが累重している場合が多いが、地盤沈下の発生は、第四紀層内の軟弱層の分布と、帯水層からの過剰揚水による影響が大きいことから、第四紀層の分布する地域の地下水集水域として地下水盆地を設定する。

##### 1) 地下水盆地設定の目的

地盤沈下の条件の一つである軟弱層は、そのほとんどが第四紀層に含まれるため、地下水盆地内の軟弱層の分布をは握することが必要であり、このためには、地下水盆地の範囲を明らかにしなければならない。

また、地下水の過剰揚水が行われると、井戸枯れ、塩水化、地盤沈下等の地下水障害につながる恐れがあり、これらを防止するためには、適正な地下水管理が必要であり、この管理は、地下水盆地単位で行うことが望まれる。これらのことから地下水盆地を設定するものである。

##### 2) 地下水盆地の設定

地下水は、特別な場合を除き、各河川の流域における降雨や地表水によってかん養されることから、地下水盆地の境界は、各河川の水系に関連した地形上の分水嶺であるといえるが、本計画では、地下水盆地を第四紀層の分布する地域の地下水集水域としているので、第四紀層の分布の範囲を地下水盆地の範囲とする。

本県における地形と地質の概要についてみると、山地については北は南部北上山地とよばれ中～古生層からなる山地であり、その先端は牡鹿半島の突端に達しており、南は北部阿武隈山地とよばれ花崗岩、中～古生層からなる山地であり、大河原、船岡付近で白石川右岸に

達しており、西は東山性岩石からなっ

丘陵地としては、帯としては大崎平野地帯があり、いずれ

河川としては、二南各低地を流域とし上川支流の迫川、江支流の白石川等があ

これらの地形と地取川水系地下水盆地、水系臨海地下水盆地、阿武隈川水系